

1 3	豊橋	牟呂小学校	シミズ ヤスユキ 名前 清水 康行	
分科会番号	6	分科会名	生活科教育	

自分を支えてくれている人とのかわりを通して、

安全な登下校をしようと思いを高める子の育成

第1学年『ぼくたちの安全を守るヒーローみつけた！

～がっこうにいくみち、かえるみち～』の実践を通して

豊橋市立牟呂小学校 清水 康行

1. 単元について

(1) 主題設定の理由

本校区は、通学域がとても広いため、住宅や公園が作られていることで生まれる死角の場所や、交通量の多い道路にある信号のない横断歩道など、危険な場所が数多く存在している。そのため、子どもたちの登下校を守るために、毎朝たくさんのかたが通学路に立ってくれている。それに対して本学級の子どもたちは、通自分たちが毎日安全に登下校できていることや、安全を守っている人がいることへの意識は高くない。

そんな子どもたちが、学校の外にも、自分の安全を守ってくれている人がいることを知り、そのかたがたとの関わりの中で、感謝の気持ちを持ち、安全に登下校しようとする思いを高めてほしいと願い、本主題を設定した。

(2) 目ざす子どもの姿

自分たちの安全を守っている人（ヒーローさん）との関わりを通して、感謝する気持ちを持ち、安全に登下校できるように、自分たちでできることを考える子

(3) 研究の仮説

通学路を実際に歩く中で、通学路に立っている人と出会うことで、自分の安全を支えてくれる人がたくさんいることに気づき、そのかたがたの思いを知ること、自分も安全に登下校したいという意識を高めることができるだろう。

(4) 研究の手立て

① ヒーローさんの存在に気付くための出合わせ方の工夫

通学路の安全を調べるために探検を複数回行い、ヒーローさんと意図的に出合わせる。

② ヒーローさんの思いに迫り、感謝の気持ちをもつための交流の場の設定

ヒーローさんに直接インタビューしたり、手紙を紹介したりする場を設ける。

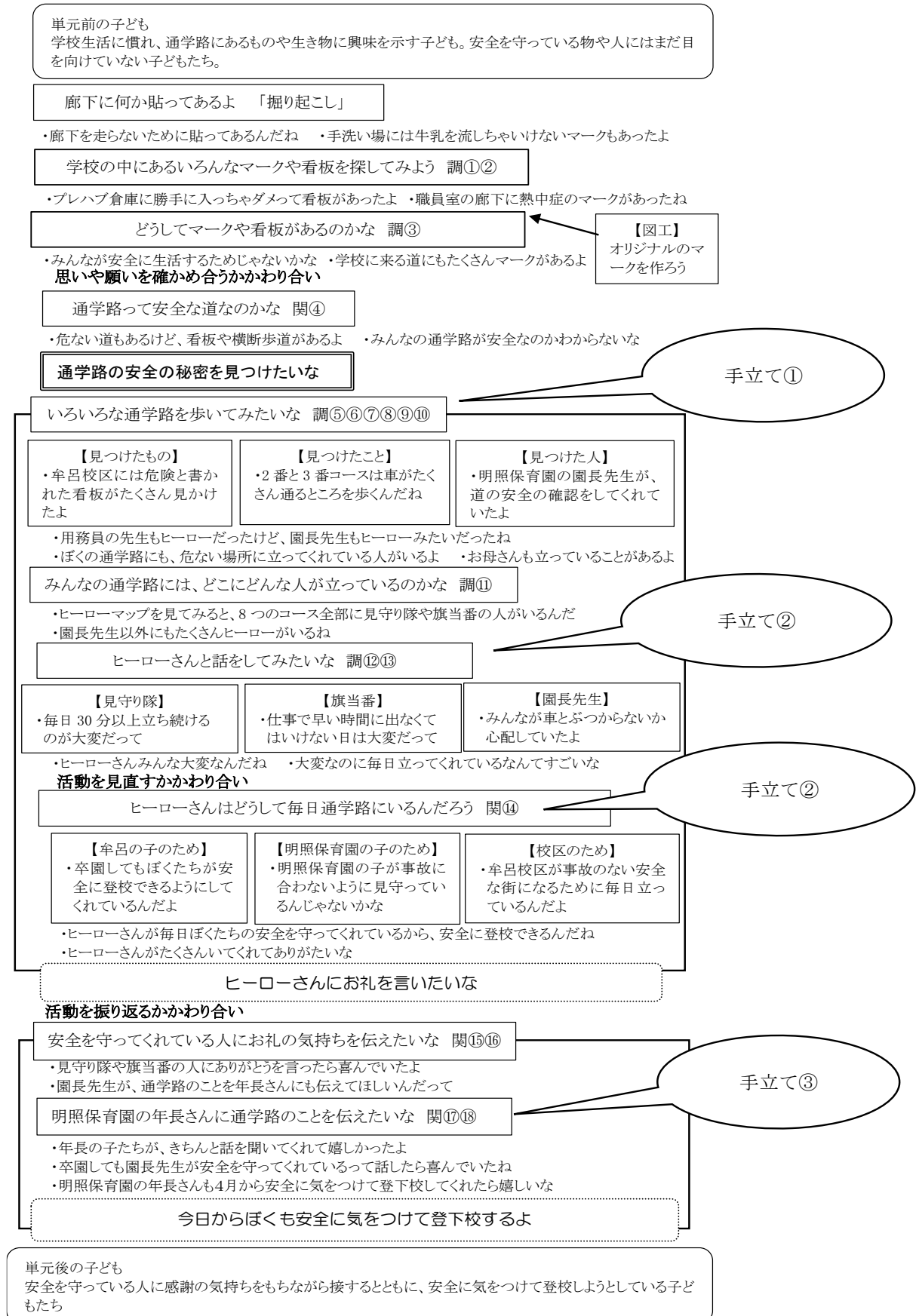
③ 自分の安全への意識を高めることができるような、発信の場の設定

年長児にこれまで学んだことを発信する場を設け、これからの安全な登下校について自分でできることを考える。

(5) 抽出児童の設定

A児は、新しいことに臆せずにチャレンジができる。新しい友達 や知らない先生に話しかけたりすることも難なくでき、人と関わるのが好きである。そんなA児だからこそ、学校の外にも自分と関わりのある人の存在を知り、交流し、思いに気付いてほしい。そして、安全を守っている人に感謝し、自分が安全な登下校のためにできることを考えられるようになってほしいと願った。

(6) 単元構想図



2. 実践経過と考察

(1) 身近にある安全を守る物って何があるのかな。

校内にある安全を守る物に関心をもつことができるように、日常的に子どもたちが目にしている階段に貼ってあるマーク【資料1】を子どもたちに提示した。子どもたちに、【資料1】が貼られている目的を考えることができるように、「どうしてこんなマークが階段に貼られているのかな」と問い返した。A児は「このマークがないとケガしちゃうから」と発言した。振り返りでは、「他のマークも見てみたい」という声がA児をはじめ、学級からあがった。



【資料1】提示した写真

(2) 学校内の安全を守るポスターやマークを探そう

校内には安全を守ったり啓発したりするための物がたくさんあることに気づき、安全についての意識を高めることができるように、校内にある安全に関する物を探して歩く活動を行った。A児は、とても意欲的に校内を歩き回り、廊下の壁や窓の手すりに貼られているポスターを、時間いっぱいまで見つけ写真撮影をし、見つけた物をコラボノートにたくさんまとめた。【資料2】話し合いを通して、A児は、学校の中に潜む危険な場所には安全を守る物があり、みんなを危険から守っていると考えることができたといえる。



【資料2】A児が見つけた物

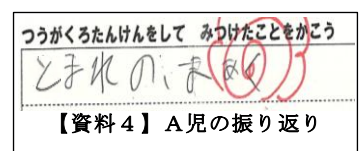
(3) 学校の外の安全を守る物も見よう

前時の話し合いの後、B児が「道路にも安全を守る矢印を見つけたよ」と教師に話しかけてきた。A児にも学校の外にも安全を守るマークやポスターがあることに気付いてほしいと願い、お話タイムを利用して『学校の外で見つけたポスター・マーク』というテーマで話し合いをした。A児ははじめ、安全を守る物に目を向けていなかった。しかし、学級の仲間が「道路に三角の形をした止まれのマークがあった」と発言すると、続けてA児は「学校の近くの地面にも止まれの文字が書いてあった」と発言した。学級の仲間の発言から、自分の通学路を振り返り、安全を守るマークに目を向けることができた。さらに、A児や他の子どもたちから通学路の安全を守る物を実際に見てみたいという発言があった。そこで、実際に通学路を歩いて、安全を守る物を探しに行くことにした。

通学路には、安全を守るヒーローさんも毎日立っていることに気付くように、通学路探検を2度行った。そして、通学路探検の際にヒーローさんにいつも立っている場所に立ってもらうようお願いし、子どもたちとの出会いの場を設けた。【資料3】探検後のA児の振り返りでは、「とまれのまあく」と書かれており、安全を守る物にだけ目を向けていた。【資料4】A児が、安全を守ってくれている人に目を向けることができるように、探検後に見つけたことを共有する話し合いを行った。話し合いの中で、B児が安全を守ってくれていた人を思い出し、「緑のおじさんがいた」と発言をした。その発言を聞き、「私のママも時々旗を持って立ってるよ」と、A児は家族が旗当番をしている様子を思い出して発

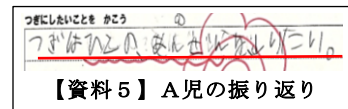


【資料3】ヒーローさんとの出会い



【資料4】A児の振り返り

言した。A児の振り返りでは、「つぎはひとのあんぜんをしりたい」と記述した。【資料5】B児の発言をきっかけに、A児はヒーローさんの存在に気付き、関心をもつことができた。



（4）通学路にはどんな人がいるのかな

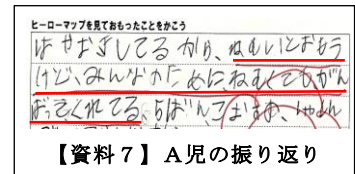
休み時間に、A児が「Cくんの通学路には違う緑のおじさんがいるんだって。どんな人なのかな」とD児に話をしていた。そんなA児が、通学路のさまざまな場所でヒーローさんが見守っていることに気付くことができるように、大きな校区地図とヒーローさんの顔写真を使ってヒーローマップを制作した。【資料6】

完成したヒーローマップを見て、A児は「すごい。たくさんヒーローさんがいる」と驚きながら言葉を発した。ヒーローマップを制作したことで、A児は校区にたくさんのヒーローさんが存在していることに気付くことができた。ヒーローマップを完成させた後の振り返りで、A児は「ねむいとおもうけど、みんなのためにねむくてもがんばってく



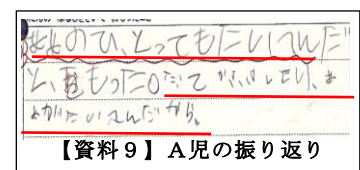
れてる」と書いている。【資料7】「どうして早起きしてるってわかるの？」と教師が質問すると、A児は「いつも私たちが毎日通学路を歩いているといつもいるし、ママが旗

当番の時はいつも朝早く起きてるから」と答えた。続けて「毎日朝早く頑張ってくれているヒーローさんをどう思う？」と聞くと、A児は「ちょっと大変そうだなって思う」と答えた。A児は、ヒーローマップを見て、家族が旗当番の日のことや毎日の通学路を歩いている時の様子を思い出し、ヒーローさんの活動の大変さや頑張りに気付き始めた。本時の振り返りを発表する場でA児は、「ヒーローさんに質問したい」と答えた。そこで、ヒーローさんと直接交流する場を設けることにした。



（5）ヒーローさんと交流するよ

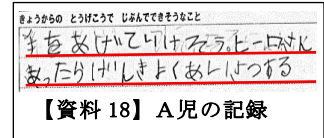
ヒーローさん二人（見守り隊の森田さん、明照保育園の園長先生）を本学級に招いた。【資料8】A児は、ヒーローさん二人に「通学路に毎日立って大変なことはありますか」と質問をした。質問に対してヒーローさんは、「雨の日に走っている人がいるから、止めて歩いてもらうように声をかけること」「保育園の近くは車がたくさん通るから、事故にあわないか心配な時がある」と答えた。ヒーローさんの話を聞いた後の振り返りでは、A児は「あめのひ、とってもたいへん。だって、かささしたり、あめがたいへんだから」【資料9】と書いた。A児は、ヒーローさんと直接関わり、思いを聞くことでヒーローさんの仕事の大変さを実感することができた。



（6）ヒーローさんから手紙が届いたよ

A児の振り返りから「大変なのに、どうして毎日立ち続けているんだろうね」と直接A児に質問した。その質問にA児は答えることができなかった。そこで、A児の困り感を学級全体で共有することにした。A児に質問した「大変なのに、どうして毎日立ち続

室の掲示物を使いながら本単元を振り返った。本単元全体を振り返り、A児は「手をあげていけそう。ヒーローさんあったらげんきよくあいさつする」【資料 18】と書いている。『手をあげて行けそう』と、どうして振り返ったのか詳しく聞くためにA児に問いかけた。A児は「月組さんに『横断歩道は手を挙げて渡りましょう』って教えたから」と答えた。A児は、月組の子どもたちに発信の場を設けたことで、伝えた内容を自分自身も守って安全に登下校していきたいと考えていることがわかった。



3 研究のまとめ

① ヒーローさんの存在に気付くための出会わせ方の工夫

通学路探検を行う前のA児は、通学路にある物や安全を守るマークに目が向いていた。しかし、通学路探検におけるヒーローさんとの出会いの場の設定と、その後の学級での話し合いの時間を設けたことで、A児は、「ひとのあんぜん」という安全を守る人の存在に気付き、目を向けることができた。

② ヒーローさんの思いに迫り、感謝の気持ちをもつための交流の場の設定

ヒーローさんを学級へ招き話を聞く場を設け、ヒーローさんに仕事の大変さを語ってもらったことで、A児は、ヒーローさんの大変さを具体的に理解することができた。そして、ヒーローさんに直接書いてもらった手紙を紹介したことで、A児や牟呂小の子どもたちに対するヒーローさんの優しさに気付くことができた。また、A児は「ヒーローさんに手紙を送りたい」と書き、手紙には「いつもありがとう」と、感謝の気持ちを表している。ヒーローさんの思いに迫ることができたからこそ、「手紙を送りたい」と書いたり、「いつもありがとう」と手紙に感謝の気持ちを表したりすることができた。

③ 自分の安全への意識を高めることができるような、発信の場の設定

明照保育園の園長先生からの手紙を読んだことで、A児は本単元の学びを発信することに関心をもった。園児に通学路の安全について発信した後、A児は「クイズをきいてくれてうれしかった」と達成感や成就感を味わったことがわかる。そして、「手をあげていけそう」と振り返っている。また、「月組さんに横断歩道は手を挙げて渡りましょうって教えたから」と発言したことから、園児へ安全についての発信の場を設けたことで、自分自身も安全に気を付けて登下校しようと、安全への意識を高めることができた。

④ A児の変容

本単元を学ぶ前までは、通学路に対して、関心をもっていなかった。本単元で通学路探検をしたり、ヒーローさんと交流し、手紙をもらったりしたことで、通学路には安全を守る物や人がたくさん存在していることに気付くことができた。そして、ヒーローさんの思いに迫ることで、ヒーローさんへの感謝の気持ちを持ち、自分自身も安全に登下校していききたいという思いをもつことができた。

4 成果と課題

本単元を終えた後、左右を確認して手をあげて横断歩道を渡る子や、ヒーローさんに元気よく挨拶をする子が増えた。安全の意識の高まりとヒーローさんへの感謝を忘れずに過ごせている子どもたちが多くなり、手応えを感じている。今後は、地域にいるさまざまな人と関わって活動し、自分ができることを考えていけるよう単元開発を進めたい。